

# いのち。くらし。まち。守るのはわたしたちです。あなたへの備えは万全ですか。

大正12年9月1日は関東大震災が起きた日です。この日を「防災の日」と定め、災害に対する認識を新たにする日と位置付けています。この機会にあなたの防災対策を見直してみましょう。

市内で発生する可能性がある災害には、風水害、地震災害、航空機災害が考えられます。特に注意が必要なのは被害の規模からいって地震災害です。災害はいつどこで起こるか分かりません。また、被害の規模を予測できないのも災害の怖いところです。

まさかのときのために心構えを再確認してみましょう。

## 被害を最小限に

地震の発生を止めたり、予測したりすることはできません。日ごろから家庭、地域、行政で安全対策を行い、発生したときの被害を最小限にしたいものです。いざというときのための持ち物を準備したり、避難訓練や防火訓練、救命講習会に進んで参加したり、災害に対する認識を高めておくことも大切です。

家族・地域ぐるみで防災対策を地震が起きたときの家族の役割分担や避難場所の確認、連絡方法などについて事前に話し合いを。また、自主防災組織など地域ぐるみでの行動が、スムーズな復旧活動につながります。



防災に対する認識を高めよう

市では、「洪水ハザードマップ」「防災マップ」「ここがポイント」などの防災「地震に自信を（英語・ハンゲル語・北京語・ポルトガル語を併記）」などを防災対策課や行政資料室で配布していますので、家族や地域の防災会議などにぜひ

ご利用ください。

家の中を安全に

家具や電化製品、照明器具などは、地震による転倒や落下の恐れがあります。壁などへ固定したり、高いところへ物を置かないなど防止策を。

建物や土地をチェック

建物の構造、地盤の強弱や周囲の地形などから、地震による被害を想定しておくことも大切。

非常持出品を準備

持出品が多すぎると避難時に支障が生じます。目安は男性で15kg、女性では10kgまで。

○貴重品：現金（小銭も）・預貯金通帳・印鑑・健康保険証・免許証・権利証書など

○救急医薬品：ばんそうこう・包帯・風邪薬・胃腸薬・鎮痛剤など

○非常食：かんパン・缶詰（火を通さずに食べられるもの）・ミネラルウォーター・缶切り・栓抜きなど



○衣類：下着・上着・タオル・毛布・紙おむつなど

○懐中電灯・携帯ラジオ…予備電池も忘れずに

○その他：マッチ・ライター・ロウソク・ビニールシート・ラップフィルム・ポリ袋など

防災訓練へ積極的に参加を積極的に参加し、災害時の行動を体得しましょう。



消火器の使い方知っていますか

## 市から防災用資機材や助成金も

「自分たちのまちは自分たちで守る」「自分の安全は自らが守る」という一人ひとりの心掛けが大切です。そこで市では地域の連帯感を高めるためにも、区・自治会・町内会などを単位とした自主防災組織の設立を進めています。

設立したいときは事前に打ち合わせをしましょう。必要に応じて防災対策課の職員が伺います。

設立が決まったら、必要な防災用資機材は市で購入します。また、活動のための助成金を交付します。

設立してからは、災害時にどうしたらよいか話し合い、自主的に訓練活動を行うことが必要です。どのように実施したらよいか分からないときは、防災対策課（☎20-1523）へご相談ください。

## 自分たちの安全は自分たちの手で



赤荻区自主防災会会長  
寺内実さん

昨年、市内で発生した突風で、赤荻地区にも被害がありました。これをきっかけに、「自分たちの安全は自分たちの手で」という気運になり、自主防災組織をこの4

月に発足させました。

生活スタイルが変わり、消防団員が日中家にいないことが多くなっています。普段家に残っている人が、いざというときに器具を使ったり、連絡をスムーズに行ったりできるようにというのも、組織を設立した理由の一つです。

もともと区や班、隣組といったように、人のつながりが深い地域です。災害や火災が発生した場合でも、みんなで助け合う気持ちはとても強いので、改めて自主防災組織を作るといっても、赤荻地区の連絡体制を再整備したといったところでしょうか。

今回初めて防災訓練を行い、消防団OBも器具の操作をするなど大活躍していましたが、災害がなく、この組織が活躍しないことが一番。今後は、それぞれの防災意識をもっと高めてもらい、この地域を自分たちの手で守れるようにしていきたいと思えます。



地元の消防団員とのポンプ操作訓練

## 災害が起きたら まず身の安全を

十分な備えをしたつもりでも、いざ地震となると慌ててしまつかもかもしれません。災害が起きたらまず、身の安全を確保しましょう。

- 1 まず身の安全を地震の心得10カ条
- 2 すばやく火の始末  
落ちていて、調理器具や暖房器具

具などの火を始末しましょう。

3 戸を開けたままでは、建物物がゆ

がんで出入口が開かなくなることも

ありますので、非常脱出口を確認

しましょう。

4 火が出たら消火

もし火災が発生しても燃え移る

前なら慌てず、落ちていて初期消

火に努めましょう。

5 外へ逃げるときは慌てずに

慌てず落ちていた行動を、外へ

逃げるときは瓦やガラスなどの落

下物に注意しましょう。

6 狭い路地やブロック塀には近

ブロック塀 門柱 自動販売機  
などは倒れやすいので注意しまし

よう。

7 山崩れ、がけ崩れに注意

居住地の自然環境を十分に把握

しておきましょう。

8 避難は徒歩で

避難場所には徒歩で、避難の際

は荷物を最小限にしましょう。

9 協力しあって応急救護

地域の防災訓練などに参加し、

応急手当の仕方を学んでおきま

しょう。

10 正しい情報を入手

うわさやデマに惑わされない。  
テレビやラジオから正しい情報を

## 風水害に備えて

入手し、行動しましょう。



日本列島には毎年、多数の台風

が接近または上陸し、強風と大雨によりたびたび大きな被害をもたらします。台風は進路や威力などを予測しやすいため、ニュースなどで正確な情報入手し、家の周囲の危険箇所をチェックして、安全対策を行います。また、狭い範囲で短時間に多量の雨が降る集中豪雨は、予想が困難でその威力は計り知れませんが、決して油断することなく、日ごろから十分な対策を立てておきましょう。

防災について詳しくは防災対策課 ☎20 1523（へお問い合わせください）。